

「地域の在り方」(2年)

授業者：青柳 忠臣

1 本題材における『学習の個性化』を充実することで期待する生徒の姿と『学習の個性化』を促す手だて

「学習の個性化」を充実することで期待する生徒の姿

- ・学習課題に対して、適切な情報を収集し、必要な情報を選択・判断して活用する姿
- ・これまでに学んだことを基に、新たな疑問や問いを立てることで解決を目指そうとする姿
- ・社会的事象を基に、課題を見出し、社会的な見方・考え方を働かせながら学習計画を立案し、解決を目指す姿

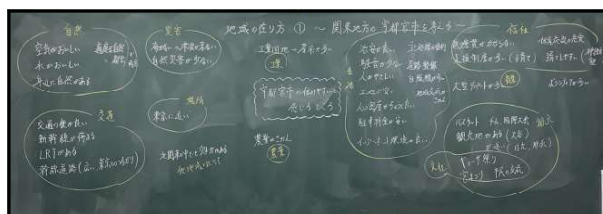
「学習の個性化」を促す手だて

- ①意図的な班編成による学習形態
- ②視点の関連付けをさせること
- ③気づきを学習シートに記述させること

2 題材の展開および『学習の個性化』を促す手だての具体と生徒の姿

第1時

○単元を貫く学習課題の設定と学習計画の作成
 宇都宮市の住みやすいと感じる所を列举し、分類する。20年後の宇都宮市が住みやすい地域であるために大切だと考えることを、分類した中から選び、各自で学習課題を設定し追究する。



第2時

○設定した学習課題に対して、情報収集しながら個人で追究する。

第3時

○情報交換と視点の関連付けを行い、追究計画を見直す。

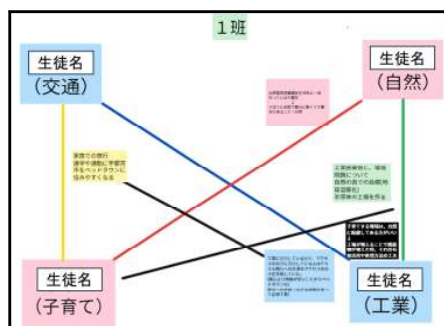
手だて①「意図的な班編成による学習形態」

異なる視点で追究している班を編成し、4人グループの形態で授業に取り組みさせた。単に異なる編成にただでなく、それぞれの追究の中身を把握している授業者が、共通性や結びつきやすさなどを考慮しながら編成した。

手だて②「視点の関連付けをさせること」

手だて①で編成した班において、右図のように関連性を考える活動を行った。ICT機器を利用し、共有機能のあるシート上で作業ができるように設定した。

活動を通して、自分と異なる視点との結びつきを考えるだけでなく、他者同士の関連性を考えたり、他の班の活動を見聞きしながら自分の班にはない視点をういて関連性を考えたりする生徒の姿が見られた。さらに、視点の関連性から考えられる影響を、自分の視点と結びつけて考えるようす、すなわち「空間的相互依存作用」の社会的な見方・考え方を働かせている生徒の姿も見られた。



手だて③「気づきを学習シートに記入させること」

手だて②の活動後に、それぞれの単元の学習シートに、本時における新たな気づきや疑問、次時の追究をどのようにするか、を記入させた。

記述から、本時で感じた視点の広がりについての記述や、他の視点と関連させながら複合的に追究する必要性について記述が見られた。

【第3時】 宮みらいプロジェクト会議の準備会を行い、情報共有や協議をしよう

1 級友からのアドバイスや質問のやり取りを通して、新たに感じたことや、新たな視点、疑問、修正しようと思ったこと、より深く考えたことなどを記入しよう

自分の追究で、自信を深めた内容とその理由を記入しよう

子育て支援は、地域の人（高齢者など色々な人）と連携して作られているので、子育て支援を充実させていくためにも、高齢者との交流の機会を増やしたり、交通を発達させることも大切なのではないかと思います。

自分の追究で、改善が必要な内容とその理由 → どのように改善する予定なのか、についても記述しよう

子育て支援をするのは重要だと思うけど、交通や産業といった面からみることもいいと思いました。健康や福祉と子育て支援をどのように繋げていくのかをしっかりと考えたいです。

級友の追究で、参考になったことを記入しよう

交通網やインフラの整備をすることで、子育てにも繋ががあるので、発展していくのではないかと思いますという発想がいいなと思いました。

第4時

- さらに情報を収集する。
- 同じ視点で追究している級友と情報を共有する。

第5時

- 追究した内容を基に、学級全体で話し合いを行う。
- 単元の学習シートをまとめる。

3 本実践の成果と課題

「異なる視点で追究している生徒との交流」を行ったことで、それぞれの生徒が自分の追究における広がりを実感し、次時以降の追究に新たな可能性や必要性を見出すことができた。また、「関連性を考える」活動において、空間的相互依存作用などの社会的な見方・考え方を働かせた意見を学級全体で共有することができ、生徒のより多面的・多角的な追究につながることを期待できる。さらに、「単元の学習シート」に本時で感じたことを記録させ、その蓄積を振り返ることができるようにすることで、自らの学びを認知させながら単元の学習を進めることができることが改めて分かった。以上のように、本実践における手だてが、「期待する生徒の姿」に近づけるためのものとして有効であったと考えられることが成果と挙げることができる。

課題として、それぞれの追究の広がりを見取ることができた一方で、深まりという点を見出すことができなかつた点が挙げられる。空間的相互依存作用に着目した意見を基に、その具体を追究する必要性を生徒に実感させることや、生徒の追究している個々の内容に対して、教師が生徒の思考をゆさぶるような指導を適切に行うことも必要であると考えられる。そのためには、生徒の実態をより一層把握した上での単元の指導計画の作成や、生徒の思考の変容がより見取ることができるような単元の学習シートの改良が必要だと考えている。